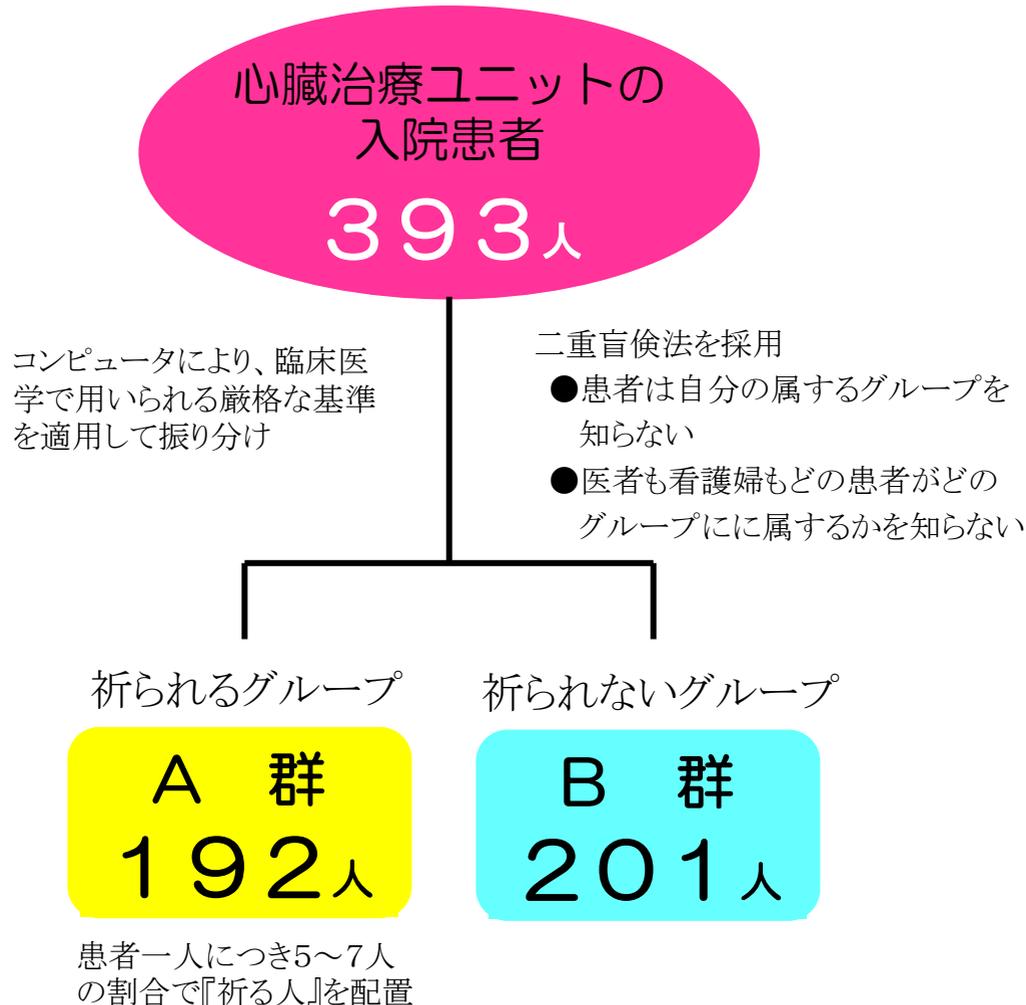


祈りの効果の検証例

『魂の再発見 ～聖なる科学をめざして』 ラリー・ドッシー著／春秋社刊(絶版)より

<元カリフォルニア大学のランドルフ・ビルド心臓学教授がサンフランシスコ総合病院にて厳密に行った実験結果>

☆「心臓学者、祈りの効果を研究」『ブレイン・マインド・ブレティン』Ⅱ:7 March1986 ☆



- 祈る人
- 全国のローマ・カトリックとプロテスタントの教会から募集
 - 患者の名前、病状を教え、毎日その人のために祈ってもらう
 - 祈り方は自由(依頼者のほうからは指定しない)

実験結果

注:日本語版では「肺気腫」となっていますが、正心調息法講習会に参加の内科医の方からご指摘を受け、その方が正しいと思われるのでここでは「肺水腫」とさせていただきます。

項目	A 群	B 群
抗生物質を必要とした人数	3人	18人
心臓疾患の結果肺水腫(注)になった人数	6人	18人
喉に人工気道を確保する気管内挿管を必要とした人数	0人	12人

※A群では死亡者も少なかったが、この事項については統計的に有意ではなかった。

※患者と祈る人との距離の違いによる有意さは見つからなかった。

信仰治療について書物を書いたウィリアム・ノーラン博士の言葉

この研究は精査に耐え得るものだ。(中略)おそらくわれわれ医師は

『1日3回祈ること』

と処方箋に書くべきなのだろう。祈りは効くのである。

➡ 祈りは病人を助ける